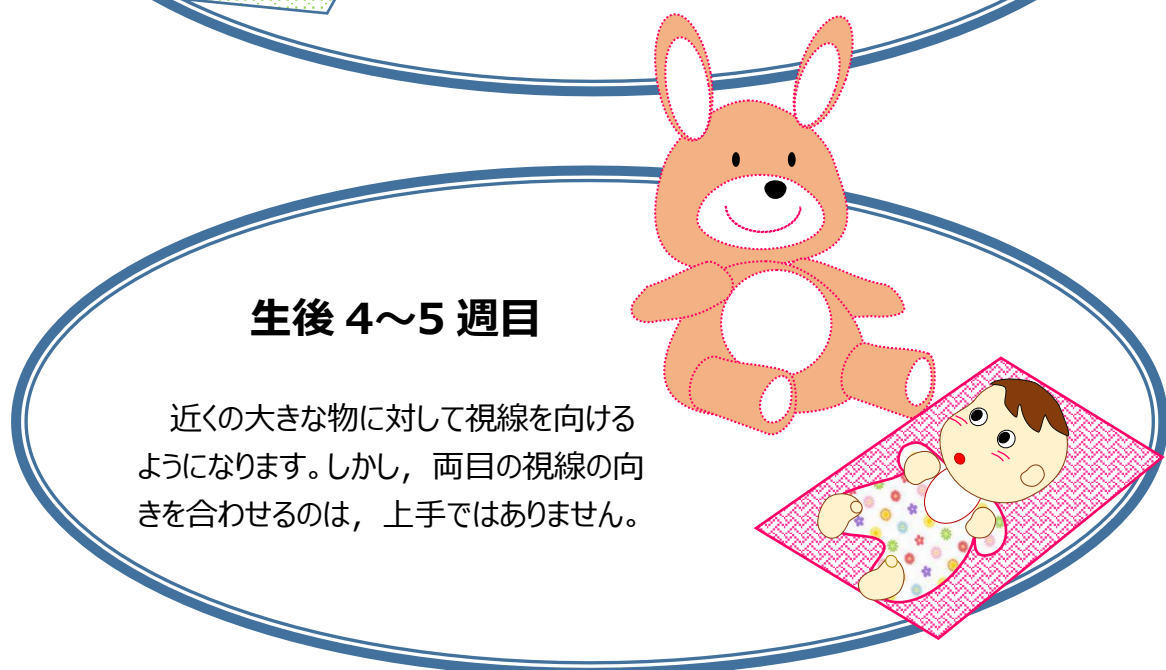
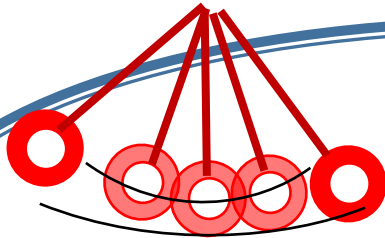




子どもの目の 発達は順調ですか？

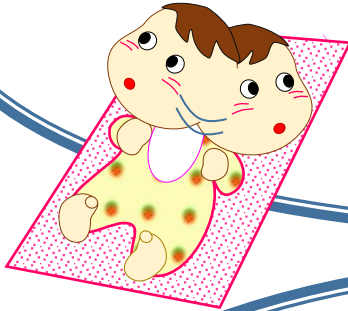
ヒトの視機能は、出生直後から1年の間に最も急速に発達すると言われています。出生時の赤ちゃんの目の機能はというと、光を当てると瞳孔（いわゆる黒目）が小さくなる対光反応がみられる場合で、視力は0.02程度です。





生後 6～8 週目 (約 2 か月目)

ようやく両目で協調のとれた視線の共同運動が可能になり、そして「追視」と呼ばれる視線で物を追っかける追従運動がはじまります。この機能は生後 4 か月頃にほぼ完成します。



生後 3～5 か月頃から

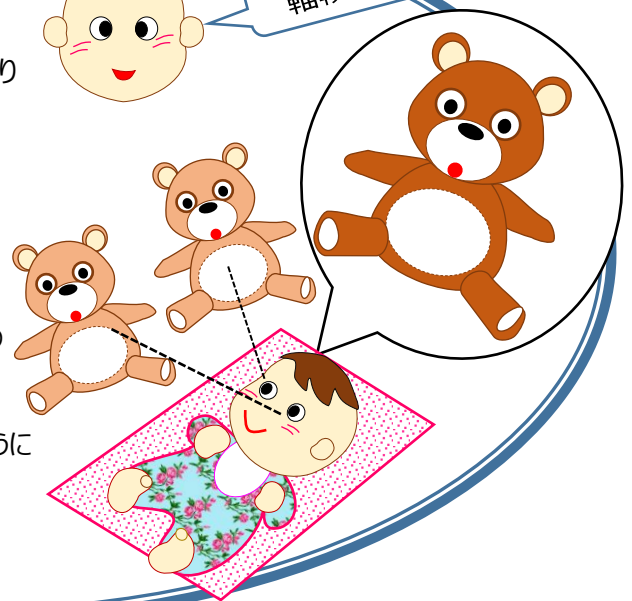
意識的な固視（注視）ができ始め、この頃より両目による滑らかな共同運動と輻輳（ふくそう いわゆる寄り目）が始まり、視力は 0.2 程度になります。

さらに、この時期には物を注視したときに、右目と左目から別々に入ってきた視覚情報を脳で統合できるようになり、その結果、左右の目からの像を 1 つの像として認識する立体視機能を獲得し始めます。

そうすると、目の前の景色に立体感を感じるようになるわけです。



ふくそう
輻輳 (いわゆる寄り目)



これらの両目の視機能が安定していれば、子どもの視機能がどんどん発達し、最終的には 6～8 歳までに、両目ともに視力 1.5 程度を獲得できるようになると言われています。つまり、8 歳の終わりまでが子どもの視機能の成長期ですが、追視・注視ができる生後半年から遅くとも 1 歳までの時期がとても大切な時期となります。それまでの過程で、何かしらの目の問題が発生した場合、それ以降の視機能の発達が阻害される場合があります。もしも、阻害されたまま目の成長期が終わってしまった場合（8 歳の終わり頃）、それ以降では視機能の十分な発達は得られません。

まずは生後半年から遅くとも 1 歳までの時期で追視や注視などがはっきりしない場合は、速やかな眼科受診が推奨されます。

ほけんだよりは、くれ子育てねっとの子育て支援サービスでもご覧になることができます。

URL <http://www.kure-kosodate.com/>